

Benefit for NIPPON

キッズランド in FUJI ROCK FESTIVAL 2019 報告



2019年7月、新潟県湯沢町の苗場スキー場でフジロック・フェスティバルが開催されました。「キッズランド」は、2大ステージとなる「グリーン・ステージ」と「ホワイト・ステージ」の間にあります。キッズランドには、森のプレイパーク、キッズペイント、ワークショップ、メリーゴーランド、駄菓子屋、ベビールームなどがあり、子どもたちや親子が一日を通して様々な過ごし方をできる場所になっています。

毎年、このキッズランド内にある駄菓子屋の収益は、遊び場づくりを通して被災地の子どもたちの心のケアを行っている当協会の復興支援活動に寄付していただいています。





Facebook ページ「こどもフジロック」にて、事前から首しまり事故防止の啓発を展開する初の試みをしました。帽子のひもや首から下げたプログラムなどを外すことで、森での冒険的な遊びでも安全を守ろうというものです。期間中は、新しく帽子掛けを制作し、メッセージを掲示したことで、その記事を読んだ人はもちろん、たくさんの保護者から理解を得ることができました。

森の中では、補修したツリーデッキや巨大遊動円木のほかにも、ロープを張り巡らして、木と木の間を渡っていけるようにしたモンキーブリッジをつくりました。そして、様々な楽器やポリバケツでつくったドラムでセッションが展開されていました。

キッズペイントのコーナーでは、アルミテープと針金で作る「ロックでメタルな虫を作ろう」、子どもたちがみんなで枝を足して創り上げていく「キボウのキ」が定番の企画に。昨年に新調したテーブルの周りには、たくさんの子どもたちがのめり込んで制作に取り組んでいました。





2019 年は、2 日目の昼から夜にかけて、豪雨が襲来。雨に慣れているフジロックとはいえ、この数年では一番の雨が降ったのではないかと思います。土曜日のケロポンズのステージは、どしゃぶりの雨の中でも決行し、ずぶ濡れになるレインコート姿の人たちと最後まで熱いステージを繰り広げました。「つばさくん」と鈴木翼くんも新曲を携えて、2 回の登場。自転車を載せながら全国を巡業する布芝居「なにぬの屋」、ソロではふーちん、初登場の福田りゅうぞうと共にステージを盛り上げました。



これまでベーゴマ熱を引っ張ってきた S くんが中学の部活が忙しく来られなくなったにも関わらず、スピリットは引き継がれていたようです。最終日のベーゴマ大会が大いに盛り上がりました。中には、毎年参加している AVALON ステージへのパレードに参加せずに練習を続ける子どもたちも続出し、実は大人の演奏がない時間帯のステージの熱がすごかった。大会の進行は子どもたち自身が担い、PA を通したマイクで MC の子どもが進行するという、完全に子ども自治の世界が出現。あまりの熱気に、もう初めて出会った子どもたち同士とは思えないほど、ひとつの場所でいっしょに遊んでいることが自然に見えていました。



ファイナーレでは、子どもも大人も、見る側も見られる側も関係なくステージに。「にじ」の大合唱とともに、2019年のキッズランド・ステージは締めくくられました。閉園時間を呼びかける子どもたちによる「またね～コール」は、子どもの発案で始まった、マイクの前に立ち、大きな声で「またね～!!!」と次々にマイクに向かって叫ぶ大人気の遊び。

子どもたちの自然に自分を表現しようとする姿が、フジロックの3日間だけでなく、全国のさまざまな場所で展開されてほしい。キッズランドは、フジロックに参加した多くの人が、それぞれの地元で日々の子どものためのアクションを起こしてくれるように願うばかりです。

2020年は、なんと8月の開催です。どんなキッズランドになるのか、とても楽しみです。

